

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-64C	15-040	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and persistent infection of high-risk human papillomavirus. 飲酒量とヒトパピローマウイルスの感染持続のリスク		
執筆者		
Oh HY, Kim MK, Seo S, Lee DO, Chung YK, Lim MC, Kim J, Lee CW, Park S.		
掲載誌		
Epidemiol Infect. 2015 May;143(7):1442-50. doi: 10.1017/S0950268814002258.		
キーワード		PMID
ヒトパピローマウイルス(HR-HPV), 子宮頸癌, 集団健診		25185457
要 旨		
<p>目的： 飲酒は、子宮頸部の発癌の重要な過程であるヒトパピローマウイルス(HR-HPV)感染が持続する高リスク要因の可能性があるが、アルコールと HRV 感染持続の関連は明らかでない。本前向き研究の目的は、集団健診データによって HR-HPV 感染持続の高いリスクに関連する飲酒の特徴（飲酒状態、頻度、飲酒の間隔、アルコール摂取量）を調査することである。</p> <p>方法： 解析対象は韓国の国立がんセンターで 2002-2011 年に健診を受診し、HR-HPV の DNA 検査と詳しい飲酒行為に関するアンケートに完答した 9,230 名の女性(HR-HPV 陽性 929 名、陰性 8,301 名)。2 年間の追跡調査により HR-HPV 感染持続を確認した。統計解析は χ^2 検定と t 検定、多変量ロジスティック回帰分析を用いた。</p> <p>結果： 飲酒者は 50.4%であった（平均 45.5 歳）。非飲酒者と比較した現在飲酒者、5 年未満の飲酒習慣者と比べた 5 年以上の飲酒習慣者は、それぞれ登録から 2 年後の追跡調査時 HR-HPV 感染持続（3 年連続 HRV 陽性 vs 3 年連続陰性）のより高いリスクを有していた[オッズ比 (OR)2.49,95%信頼区間(CI)1.32-4.71, OR2.33,95%CI1.17-4.63]。非飲酒者と比べ飲酒頻度が多い(週 2 回以上)と 1 年後の調査時に 2 年連続 HRV 陽性となる高いリスク [OR1.80,95%CI1.01-3.36]があり、ビール摂取量が多い(3 杯以上/機会)と 2 年後の調査時 HR-HPV 感染持続の高いリスク [OR3.62,95%CI1.35-9.75] を有した。HPV 陽性に登録された対象者が飲酒習慣[OR2.68,95%CI1.10-6.51]とビールあるいは焼酎の摂取量が多い（2 杯以上/機会） [OR2.90,95%CI1.06-7.98]と、3 年連続あるいは交互年での HR-HPV 陽性となるリスク(vs 陰性)が増加した。</p> <p>結論： 飲酒は韓国人女性において 2 年後までの子宮頸部の HR-HPV の感染持続のリスクを増加する可能性を示唆した。</p>		